

失敗は成功のもと

徳島赤十字病院 心臓血管外科 来島敦史

『2024 年もあっという間に過ぎ、医療の現場では多くの挑戦と成果がありました。今年一年、私たちはさまざまな困難に直面しながらも、共に協力し、患者の皆さまに最善の医療を提供すべく努めてきました。その中で、技術革新や新しい治療法の導入が進み、スタッフ一人ひとりの努力が大きな成果として実を結びつつあります。しかし、医療現場は常に進化し続けており、私たちは引き続き学び続け、変化に柔軟に対応する必要があります。新たな挑戦には不安も伴いますが、それを乗り越えることで、より質の高い医療サービスを提供できると信じています。また、患者中心のケアを実践するためには、全スタッフが丸となり、コミュニケーションを大切にしていけることが不可欠です。2024 年を振り返り、皆さまと共に歩んできた日々に感謝し、来年も一層の成長を目指して努力していく所存です。医療はチームワークと信頼があってこそ成り立つものです。今後も引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。』

AI に「院内雑誌の巻末言を作成してください」と指示すると上記文章が数秒で返ってきました。誤字や脱字もなく完成度の高いものとなっています。ワークライフバランスが重視される昨今において効率化のために AI の活用は必須であり、有料版を使用すれば論文作成も可能になってきているとのこと。ただ、やはり何事も失敗を含めた過程を経験し考察を重ねることが成長には必要だと思います。検索すればすぐに回答が出てくる現在において、その回答を吟味する自分自身を成長させることが重要となっています。

AI に「論文執筆の意義は？」と質問したところ、『医療の発展とともに、研究者自身の成長や社会貢献の一環として、今後も重要な役割を担い続けるでしょう。』と回答が返ってきました。

徳島赤十字病院医学雑誌第 30 巻、完成です。